

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（剣道・銃剣道）の実践

富山県南砺市立井口中学校
教諭 藤野 淳子

本校がある富山県南砺市井口地区は、県の南西部に位置し、南側に山を望み平野部は水田の広がる自然に囲まれた農村部である。

令和元年度、スポーツ庁より「武道等指導充実・資質向上支援授業」の「武道推進モデル校」となり、従来の剣道に加え、新たに銃剣道にも取り組んだ。令和2年度も同事業の委託を受け、前年度に引き続き体験を行った。



1 学校の概要

本校は、県西部に広がる砺波平野の南端部に位置し、大部分が兼業農家である。地域の南側には、高清水山系の赤祖父山があり、ブナの原生林帯となっている。地域を流れる山田川の段丘崖付近からは、縄文後期の住居跡や土器が発掘されたり、中世の石塔群が保存されていたりなど、歴史ある地である。

全校生徒は18名で、素直で明るく純朴である。豊かな自然に囲まれた環境でのびのびと学校生活を

送っている。小学校が敷地内に隣接し、運動会や学習発表会など諸行事を小中合同で行うことが多く、中学生が年長者としての自覚をもつて小学生をリードしたり、優しく世話をしたりする光景が見られる。

部活動では、バドミントン部が小規模校にもかかわらず、県の大会に毎年出場しており、運動に対して積極的に取り組む生徒がほとんどである。

令和2年度は1、2、3年生18名が昨年11月から12月にかけて武道授業を実施した。剣道が7時間、銃剣道が2時間。銃剣道は11月11日に2時間まとめて実施した。剣道は経験者で本校の元教員に、銃剣道は全日本銃剣道連盟などの専門家に外部指導者として協力してもらった。

【剣道の実践内容】

▼ねらい

- ・剣道の専門的技能や知識のある外部指導者との連携で、より専門的な技能や知識を身につけるよう学習活動の充実を図る。
- ・安全面の配慮や生徒の発達段階（異学年合同体育）に応じた個別指導の充実を図る。

▼指導の工夫

- 効果的に指導するための工夫
- ・外部指導者の専門的な助言を取り入れ、綿密に打ち合わせを行い指導に生かす。
- ・全校生徒が合同で授業を行い、経験のある上級生が1年生にア

ドバイスすることで、学習活動の充実を図る。

- ・初めて互角稽古を行う時には、恐怖心をもたないようにウレタン製の竹刀を使って行う。

○生徒の安全を確保するための工夫

- ・体育館で授業を行うため、床の金属プレートなどに足が引っかかるないようにテープを張り予防する。

- ・新型コロナウイルス対策として、竹刀や防具は各自、自分専用のものを使う。また、毎時間の初めに点検や正しい扱い方の指導を行い安全に留意する。

▼指導内容

全校生徒18人の合同授業で、全7時間の計画で剣道を実施した。1年生は剣道が初めてのため、礼儀、作法から始まり、竹刀の持ち方、素振り、防具のつけ方、片付け方などの基本の指導から始めた。2、3年生は経験者ということで、1年生の手本になったり、アドバイスをしたりするので、基本的なことの習得に時間を取る

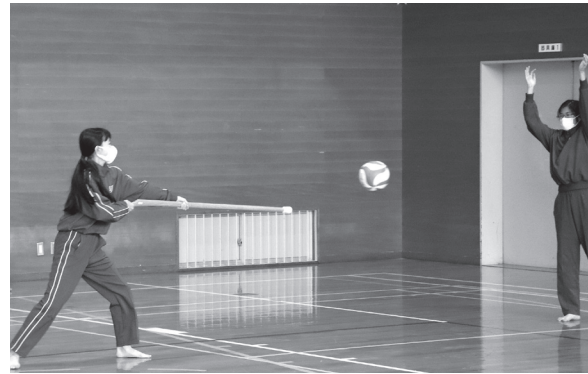
2 実践内容

剣道から銃剣道につなげることで、武道に共通した礼儀や作法を学び深めるとともに、剣道・銃剣

道に共通した基本的な動きを段階的に学ぶ授業の展開を目指して実践した。



防具をつけた講師を実際に突く（銃剣道）



木銃でボールを突く（銃剣道）



新聞突きを講師が解説（銃剣道）

②2時間目
 木銃での突き方の基本を教えていただいた後、一定のリズムで突く練習をした。次に木銃をまっすぐに突くために、新聞紙を突く練習や投げたボールを突く練習を行った。その後、防具をつけた講師の先生を実際に突く体験を行った。

最後に、講師陣による実際の試合を見せていただいた。生徒たちは、試合の迫力と緊迫感に息をのんで見入っていた。

剣道を全校生徒の合同授業で行うことで、いろいろな場面で2、3年生が1年生に教えたり、アドバイスを送ったりしている姿が見られた。今後も合同で学習することで、学んだことを教え合いながら学習の成果を上げていきたい。

銃剣道から剣道につなげた学習は、すり足や足さばき等に共通する動きを見いだすことができ、技能を習得しやすかったと感じた生徒が多くいた。また、銃剣道を体

験した後の剣道の授業では、体験前と比べて足さばきや体さばきが明らかに上手になった。また、剣道、銃剣道の両方で、武道の礼儀や正しい姿勢での正座や礼の仕方を教えてもらったおかげで、凛とした雰囲気（れんき）の授業が行えた。

銃剣道の指導は、専門性が高く、外部指導者の存在は大変重要である。2年間、たくさんの外部指導者に来てもらい、1人の講師が生徒2人を指導するという手厚い態勢だったので、分かりやすく安心して体験することができた。生徒の意識調査の結果から、大半の生徒が、複数武道の学習を通して、剣道以外の武道にも関心をもち、日本古来の行動の仕方や考え方について理解を深めていた。

しかし、授業として行っていくためには、木銃や専門的な防具を

れることなく授業を進めることができた。

3時間目からの互角稽古では、初めて行う1年生が恐怖心をもたないように初めはウレタン竹刀で行った。1年生が恐怖心をもたずに行えたことはもちろんだが、2、3年生も楽しく行っていた。

その後、1年生は基本的な技や連続技を中心に、2、3年生は払い技やすり上げ技などのより高度な技の練習を行った。最後の7時間目には、18名を紅白に分けた団体戦を行った。7時間という少ない

い全体計画ではあるが、初心者も1年生も試合ができるまでになった。

【銃剣道の実践内容】
 ▼ねらい

- ・剣道と銃剣道の足さばきやすり足などの基本動作の共通点や、武道の伝統的な考え方や行動の仕方について気づかせる。
- ・技の指導では、突きをみの銃剣道から攻め方が多種にわたる剣道へとつなげることで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。

○生徒の安全を確保するための工夫

▼指導の工夫

- 効果的に指導するための工夫
- ・限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- ・剣道と銃剣道に共通する礼儀や基本の動きがしっかりと身につくよう徹底する。
- ・投げたボールや新聞紙を突く練習を取り入れ、生徒が楽しく興味・関心をもちながら基本動作を正しく身につける練習方法を取り入れる。

送り足の練習として足で雑巾を踏んで行うリレーでは、楽しく盛

・オリエンテーションで、外部指導者より、安全な運動の仕方、木銃の扱い方について説明を受ける場を設ける。

- ・コロナ対策として、生徒各自が自分専用の木銃を使い、マスク着用のうえ、ソーシャルディスタンスを保って実技を行う。

▼指導内容

①1時間目

初めにDVDを視聴し、銃剣道の成り立ちや歴史のほか、用具についての説明があった。次に礼法の手順や仕方を学んだ。そのおかげで、背筋の伸びた姿勢で体験を行っていた。

続いて木銃を使った実践に入り、木銃の持ち方、構え、直れの姿勢を学習した後、前後左右の足さばきを教えていただいた。足さばきは、前に出る足が剣道と逆なので生徒たちは最初戸惑っていたが、行っていくうちに慣れていった。



講師による見本（剣道）



胴打ちの練習（剣道）



かかり稽古（剣道）



銃剣道では多くの講師に指導いただいた



講師による指導後の座礼（銃剣道）



木銃の扱い方の練習（銃剣道）

井口中学校 武道授業全体計画（令和2年度）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
種目	剣 道	銃 剣 道		剣 道					
学習の流れ	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し） 準備運動								
	座礼・立礼	・銃剣道の歴史・特性 ・礼法 ・構え ・直れ ・木銃の扱い方	・足さばき送り足 開き足歩み足 ・突き方 ・突いた姿勢 ・基本の交差の直突 ・目標物を突く	基本打突	切り返し	応じ技	係り稽古	紅白試合	
	防具の付け方 しまい方				引き技 払い技	試合の進め方 練習試合	練習試合		
	・構え方 ・間合い ・素振り			切り返し					

そろえるという課題もあり、2時間程度の体験以上のことはなかなかできないのが現状である。また、本校のような小規模校では全校合同授業のため、初めての1年生に合わせて学習内容が行われるので、2、3年生は昨年と同じような体験になってしまう。そのため、学習内容を深めたり広めたりしにくいという課題があった。

武道の授業は、学習指導要領において必修である。保健体育科教員が武道を専門としていない場合、他の種目に比べてポイントが教えるにできなかったり、内容を深めたりすることが難しい。しかし、外部指導者と協力することで、生徒と教員の両方にとって安全面、技能面、精神面での高い効果があり、よりよい武道の授業ができると感じた。

※本年4月より、井口中学校は義務教育学校（小学校から中学校までの教育課程を一貫する学校）である南砺つばき学舎となりました。